

[4] ワンポイント解説

第1問	[1]	<p>(1) $-2 \leq x \leq 1$</p> <p>(2) $\frac{-1-a}{2} \leq x \leq \frac{-1+a}{2}$</p> <p>(3) $a=3$ のとき, (1) より, $-2 \leq x \leq 1$ これを満たす整数 x の個数は $N=4$</p> <p>$a=4$ のとき, $\frac{-5}{2} \leq x \leq \frac{3}{2}$</p> <p>$a=5$ のとき, $-3 \leq x \leq 2$</p> <p>N が初めて 4 より大きくなるのは, $a=5$</p> <p>[2]</p> <p>(1) $p: m > k$ または $n > k$ の否定は, <u>② $\bar{p}: m \leq k$ かつ $n \leq k$</u></p> <p>(2) 「または」のまま考えるより, 対偶をとることにより「かつ」で考える方が簡単</p> <p>(i) $\bar{p}: m \leq 1$ かつ $n \leq 1$ (m, n は自然数であるから, $m=1$ かつ $n=1$) $\bar{q}: mn \leq 1$ (m, n は自然数であるから, $m=1$ かつ $n=1$) \bar{p} と \bar{q} は同値であるから, p と q も同値 p は q であるための <u>① 必要十分条件である</u></p> <p>(ii) $\bar{p}: m \leq 2$ かつ $n \leq 2$ $\bar{q}: mn \leq 4$ $\bar{r}: mn \leq 2$ 「$\bar{r} \Rightarrow \bar{p}$」は真であるから, 「$p \Rightarrow r$」も真 p は r であるための <u>② 十分条件であるが, 必要条件でない</u> 「$\bar{p} \Rightarrow \bar{q}$」は真であるから, 「$q \Rightarrow p$」も真 p は q であるための <u>① 必要条件であるが, 十分条件でない</u></p>
-----	-----	--

第2問

$$G: y = -x^2 + (2a+4)x + b = -\{x - (a+2)\}^2 + a^2 + 4a + b + 4 \cdots \textcircled{1}$$

①のグラフGの頂点P $(a+2, a^2 + 4a + b + 4)$

Pが直線 $y = -4x - 1$ 上にあるとき、Pの座標を直線の式に代入して

$$b = -a^2 - 8a - 13$$

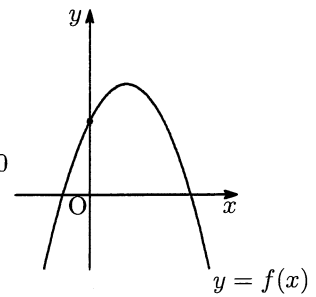
このとき、 $G: y = f(x) = -\{x - (a+2)\}^2 - 4a - 9$ とする

(1) Gがx軸と異なる2点で交わる時、(Pのy座標) > 0

$$a < \frac{-9}{4}$$

Gがx軸の正の部分と負の部分の両方で交わる時、 $f(0) > 0$

$$-4 - \sqrt{3} < a < -4 + \sqrt{3}$$



(2) (イ) $a+2 \leq 2$ のとき ($a \leq 0$)

$x = 4$ で $f(x)$ は最小

最小値 $f(4) = -a^2 - 13 = -22$ となるのは、 $a = -3$

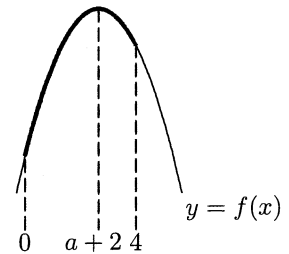
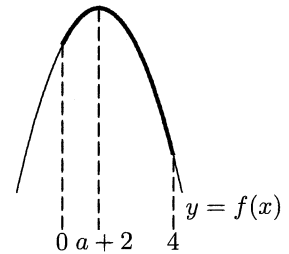
このとき、 $y = -(x+1)^2 + 3 \cdots \textcircled{1}'$, 頂点 $P_1(-1, 3)$

(ロ) $2 \leq a+2$ のとき ($0 \leq a$)

$x = 0$ で $f(x)$ は最小

最小値 $f(0) = -a^2 - 8a - 13 = -22$ となるのは、 $a = 1$

このとき、 $y = -(x-3)^2 - 13 \cdots \textcircled{1}''$, 頂点 $P_2(3, -13)$



①'' は $x = 3$ で最大値 -13

P_1, P_2 の座標に着目し、

①' を x 軸方向に 4 , y 軸方向に -16 だけ平行移動すると

①'' に一致する

第3問

ABの中点をD, $\angle ABC = \theta$ とすると, 直角三角形ABDにおいて,

$$\cos \theta = \frac{BD}{AB} = \frac{1}{3}, \quad \sin \theta = \frac{AD}{AB} = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

$$\triangle ABC \text{の面積は, } S = \frac{1}{2} \cdot BC \cdot AD = \frac{2\sqrt{2}}{2}$$

$$\triangle ABC \text{の内接円Iの半径は, } r = \frac{2S}{BC + CA + AB} = \frac{\sqrt{2}}{2} (= ID)$$

$$\text{直角三角形IBDにおいて, } IB = \sqrt{BD^2 + ID^2} = \frac{\sqrt{6}}{2}$$

$$(1) \triangle BPQ \text{の外接円Oの直径は, 正弦定理より, } 2R = \frac{PQ}{\sin \theta} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

IOと $r+R, r-R$ の大小に着目し,

円Iと円Oは **③異なる2点で交わる**

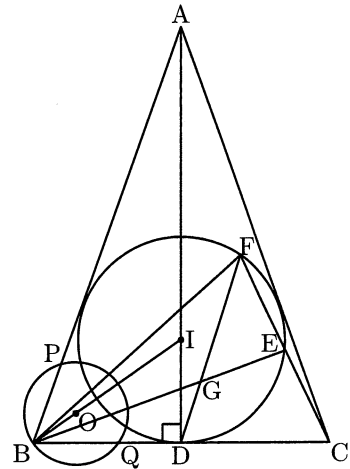
$$(2) \text{円Iにおいて, 方べきの定理より, } CE \cdot CF = CD^2$$

$$\therefore CE = \frac{\sqrt{2}}{2}, \quad EF = CF - CE = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$$E \text{は} CF \text{の中点であるから, } \frac{EF}{CE} = 1$$

$\triangle BCF$ において, Gは中線BEと中線FDの
交点であるから重心である

$$\therefore \frac{GM}{CG} = \frac{1}{2}$$



第4問

9枚から5枚選ぶ選び方は, ${}^9C_5 = 126$ 通り

(1) 番号5を含むのは, 残り8枚からあと4枚選ぶ選び方で, ${}^8C_4 = 70$ 通り

番号5を含まないのは, $126 - 70 = 56$ 通り

(2) 取り出すカードを番号が小さい順に **A**, **B**, **C**, **D**, **E** とする

得点が2点となるのは, **A** を番号1から番号4より1枚選び,

C ~ **E** を番号6から番号9より3枚選び, ${}^4C_1 \cdot {}^4C_3$ 通り

以下, 同様にして,

得点	0	1	2	3	4	5
確率	$\frac{56}{126}$	$\frac{{}^4C_4}{126}$	$\frac{{}^4C_1 \cdot {}^4C_3}{126}$	$\frac{{}^4C_2 \cdot {}^4C_2}{126}$	$\frac{{}^4C_3 \cdot {}^4C_1}{126}$	$\frac{{}^4C_4}{126}$

0点, 1点, 2点, 3点となる確率は, 順に $\frac{4}{9}, \frac{1}{126}, \frac{8}{63}, \frac{2}{7}$

得点の期待値は, $\frac{5}{3}$